



冬に聴きたい ホワイトアルバム特集

寒い日々が続いていますが、皆様は冬も音楽を聴いていますか？ 冬といえば雪、雪といえば白=ホワイト。ということで今回の「目から鱗」ではBeatlesの不朽の名作「The Beatles」に模して、ジャケットが白を基調としたアルバム2枚を「ホワイトアルバム」と銘打って紹介します。雪が降る寒い日に聴くと感傷的になること間違いなしの2枚です。テスト勉強のお供にもピッタリですので、ぜひ聴いてみてください！ (砂消し)

収録曲 (☆はシングル表題曲)

- | | | |
|--------------------------|---------------------|----------------------------|
| 01. overture | ☆ 06. youthful days | 11. Drawing |
| 02. 蘇生 | 07. ファスナー | ☆ 12. 君が好き |
| 03. Dear wonderful world | 08. Bird Cage | 13. いつでも微笑みを |
| 04. one two three | 09. LOVE はじめました | ☆ 14. 優しい歌 |
| 05. 渴いた kiss | 10. UFO | 15. It's a wonderful world |



IT'S A WONDERFUL WORLD Mr.Children

2002.5.10 トイズファクトリー



90's, 00'sのJ-POPシーンを牽引し、今なお強烈な存在感を放つ「モンスターバンド」ことMr.Children。1992年5月10日にメジャーデビューし、これまで約30年間にもわたって多様な音楽を精力的に生み出し続けてきた彼らの、デビュー10周年に当たる日にリリースされたのがこの10作目のオリジナルアルバムである。

全15曲収録のアルバムであるが、#01と#02は壮大で力強く、以降のアルバムの展開に期待を抱かせる一続きのナンバーとなっていて、アルバムの一貫したテーマである「この醜くも美しい世界」というフレーズが歌詞に登場する#03からが本番である。「IT'S A WONDERFUL WORLD」というアルバム名から、一見すると世界の美しさ、素晴らしさを表現した明るい作品のように思えるが、聴き終えるとその予想とは少し異なる印象が残るだろう。#04のような明るい曲調のナンバーやシングル曲なども含まれるものの、全体として曇り空のような淀んだ空気感を纏ったナンバーが多い。美しいメロディーとは裏腹に恨み節が連ねられた#05、強烈な社会風刺が印象的な#09など、おそらく多くの人が彼らに抱くようなポップで温かみのある作風とは大きく異なる、所謂「尖った」ナンバーが並んでおり、これこそがこのアルバム及びこの時期の彼らの音楽の良さである。その一方で、アルバム終盤は徐々に明るい方向に向かう感じが感じられ、#03に前向きで元気づけられるフレーズが加わった#15で「この醜くも美しい世界」が再び歌われて、この作品は幕を閉じている。

この作品には、気を病むことが多い中にも素晴らしいことを見つけながら生きていこう、という彼らからのメッセージが込められているように思える。彼らの近い時期の他の作品と比べるとやや目立たない印象であるが、実際にはコンセプトが一貫されていてとても味わい深いアルバムである。世界や人間の良いところだけでなく綺麗でない側面も歌われているからこそ、リスナーの心を強く掴むのではないかな。



読者の皆さまの中にはサブスクリプションサービスを通して、聴きたい曲をピンポイントで聴いたり自分好みのプレイリストを作ってシャッフル再生で聴く人が多いのではないのでしょうか。そういった聴き方も確かに便利で良いところも多くありますが、ここでは是非オリジナルアルバムを曲順通りに聴いてみてはいかがでしょうか。

タイアップ曲などのキャッチーなものがシングルや先行配信といった形でリリースされる一方で、アーティストがより長期的なスパンで自分たちの表現したいものを作りこんだ集大成がオリジナルアルバムであり、両者の制作意図は大きく異なります。曲順にもこだわって作り上げられたアルバムをそのまま通して聴くことで、アーティストが作り上げた世界に没入することができます。それまで知らなかったアルバム曲に出会うこともできて、音楽をより広く、より深く好きになれるオスズメの方法です。

収録曲 (☆はシングル表題曲)

- | | | |
|--------------------|-------------------------|---------------|
| 01. バウムクーヘン | 06. エイプリル | 11. Laid Back |
| ☆ 02. Sugar!! | 07. Clock | 12. All Right |
| 03. Merry-Go-Round | 08. Listen to the music | 13. タイムマシン |
| 04. Monster | 09. 同じ月 | 14. ないものねだり |
| 05. クロニクル | 10. Anthem | 15. Stockholm |



CHRONICLE フジファブリック

2009.5.20 EMI ミュージック・ジャパン



ファンのみならず他の多くのアーティストたちからも確かな支持を得ているフジファブリック。雪の降り積もるスウェーデンはストックホルムでレコーディングされたこのアルバムは、彼らのメジャーデビュー後4枚目のフルアルバムにして、故・志村正彦がフロントマンとして存命中にリリースされた最後のアルバムである。

この作品の始まりを告げる#01と#02はどちらもストレートなロックナンバーであるが、その内容は大きく異なり、前者は志村自身の弱い側面を赤裸々に歌いあげた曲である。その一方で後者は昨年日本中を大きく沸かせたWBC(ワールド・ベースボール・クラシック)の、第2回大会のテーマソングにも選ばれたことも頷けるような、ノリの良い応援ソングとなっている。特に、#01はアルバム曲ながらリスナーからの人気はとて高く、ロックバンドのフロントマンという華々しい場所で活躍していた彼も実際には自分たちと変わらない一人の人間なのだと感じさせてくれる、切ない1曲である。その後は多彩な楽曲が並んでいるが、特に#9と#10の完成度の高さが光る。まず歌詞の側面で見ると、両方の曲で「月」が重要な役割を任せていて、前者では「僕」、すなわち志村と「君」との間の物理的距離、精神的距離が星空の中の月を見るという行為の中に示されており、後者では月の満ち欠けが時間の経過を示唆するものとして用いられている。またサウンドの側面では、前者は切なさを含んだ明るいメロディーであるのに対し、後者はベースの重厚なイントロから始まる壮大なサウンドで、志村の感性の豊かさとバンドの表現力の高さが色濃く表れた2曲である。

このアルバムは歌詞を読むとわかるように、多くの曲が恋愛に関する心情、特に暗い感情を歌ったもので志村の内省的側面の強い作品である。ストックホルムの冬の情景を閉じ込めたようなどこか心細さを感じる一作で、最終的にこのアルバムが彼の遺作となった点には、ある意味運命的な印象も受ける。

はみだし
すてーじ

タツ? 辰? 竜?
⇒「立」の可能性も残されているのでは?

(他 みどり)
(某プロ野球チームが連想される;編)

はみだし
すてーじ

阪神優勝!!
⇒下宿にテレビが無い僕は、編集部員とともにBOXでリーグ優勝・日本一を見届けました!

(経・6 がんちゃん)
(最高の瞬間でしたね;編)